

# Psychiatry and Clinical Neurosciences

Psychiatry and Clinical Neurosciences, 75 (3) は, Review Article が 1 本, Regular Article が 1 本掲載されている。国内の論文は著者による日本語抄録を, 海外の論文は PCN 編集委員会の監修による日本語抄録を紹介する。

## Review Article

Recent updates of eye movement abnormalities in patients with schizophrenia : A scoping review

A. Wolf\*, K. Ueda and Y. Hirano

\*1. International Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science, Fukuoka, 2. Department of Human Science, Research Center for Applied Perceptual Science, Kyushu University, Fukuoka, Japan

統合失調症の眼球運動異常に関する最新の知見 : スコーピングレビュー

【目的】Eye-tracking 技術は, 単に提示された固視点に視線を維持することを保証するための視線データの収集のみに限らず, その発展が著しいが, 臨床研究においてあまり活用されていない。近年, 統合失調症患者では, 新しい視線測定法によって指標化された「視覚情報の符号化プロセスの障害」が頻繁に報告されている。本研究では, 統合失調症患者におけるサッケード機能障害と探索的眼球運動障害に関する研究のスコーピングレビューを行った。本研究では, 統合失調症スペクトラムのバイオマーカーとして有望な, 注意課題中の眼球運動異常とその結果についての最新の証左を網羅した。【方法】本研究のプロトコルは PRISMA for scoping review guidelines をもとに作成した。統合失調症患者の視覚処理に関する知見と, 同疾患のバイオマーカーとしての眼球運動特性を報告した論文を特定

するために, 2010 年から 2020 年の間に発表された論文の電子データベースを系統的に検索した。【結果】最新の Eye-tracking 装置を駆使することで, 非侵襲的に, 統合失調症のハイリスク群や統合失調症患者の視覚情報処理障害の検出力を改善することに成功していることを, 多くの研究が報告している。【結論】Eye-tracking 技術は, 症候群ベースの診断アプローチと組み合わせることにより, 統合失調症の早期介入や, 診断精度の向上に貢献する可能性を秘めている。しかしながら, 包括的な病態モデルを構築するためには, 被験者のコンテキスト処理を検出するための実験系を実施し, アクセス可能な知見として報告することが不可欠である。

## Regular Article

Neuropsychological outcome in refractory obsessive-compulsive disorder treated with anterior capsulotomy including repeated surgery

L. Krámská\*, D. Urgošík, R. Liščák, L. Hrešková and J. Skopová

\*1. Department of Clinical Psychology, Na Homolce Hospital, Prague, 2. Department of Neurology, Na Homolce Hospital, Prague, 3. Charles University in Prague, Prague, Czech Republic

再手術を含む内包前脚切裁術を実施した治療抵抗性強迫性障害の神経心理学的転帰

【目的】内包前脚切裁術 (anterior capsulotomy : AC) は, 保存療法に抵抗性の強迫性障害 (obsessive compulsive disorder : OCD) に対する最後の治療選択肢の 1 つである。OCD 患者の神経心理学的所見の評価により, 複数の型の認知障害が確認されているが, 術後の OCD 患者の認知機能変化に焦点をあてた研

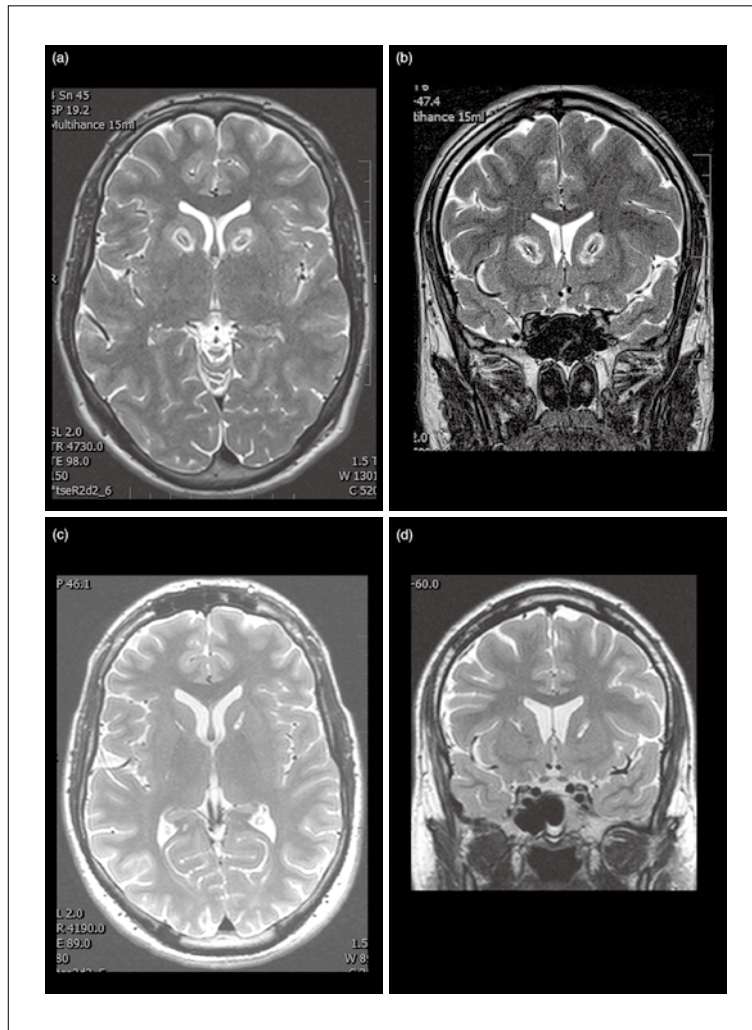


Figure 1 Magnetic resonance imaging examination, 1 day after thermolesion. Structural changes consisting of three coagulations in the right and left anterior limbs of the internal capsule. (a) Axial T2 SE image. (b) Coronal T2 SE image. Magnetic resonance imaging examination, 6 months after thermolesion. Reduced structural changes consisting of three coagulations in the right and left anterior limbs of the internal capsule. (c) Axial T2 SE image. (d) Coronal T2 SE image.

(出典：同論文, p.104)

究はほぼない。本研究では、治療抵抗性 OCD 患者の認知能力および気分の状態に、AC が及ぼす影響を評価した。【方法】2012～2019 年、当施設において計 12 名の患者に両側 AC を実施した。介入前および介入 6 ヶ月後に、患者 (n=12 (女性 5 名, 男性 7 名), 平均年齢 39.7 歳, 罹病期間 5 年以上) の評価を行った。治療抵抗性 OCD の診断には、外科治療の推奨基準を用いた。不安-抑うつ症状に焦点をあてた神経心理学的検査バッテリーおよび質問票により、患者を評価した。OCD 症状の重症度の尺度として、イエール・ブラウン強迫観念・強迫行為尺度

(Y-BOCS) を使用した。【結果】AC 実施から 6 ヶ月後の OCD および不安-抑うつ症状を、Y-BOCS、ベック抑うつ評価尺度 (BDI-II) およびベック不安評価尺度 (BAI) により評価したところ、8 名に有意な軽減 ( $P < 0.05$ ), 4 名に部分的な軽減が認められた。4 名が AC の再手術を受け、最初の処置後に比べて顕著な改善が得られた。いずれの患者にも認知能力の低下は認められず、視覚的記憶能力は向上していた ( $P < 0.05$ )。【結論】AC により OCD および不安-うつ症状は軽減され、再手術も認知能力に影響を及ぼさないようである。

福村の作品には幾何学的な図形がよく登場する。ただし、幾何学的といっても、形がどこかいびつだったりテクスチャーが豊かだったりするので、彼の絵が冷たい抽象画にみえることはない。その多くは、どこか風景を、というよりも地面を思わせる（炭鉱で働いていたこともある彼は、実際に、畑を耕し畝をつくるのが得意とする）。この作品のサイズは116.6×91.0 cmと比較的大きい。彼は小さな作品も大きな作品も得意とし、大きな作品でも、この作品がまさにそうであるように、色や形の数をおさえてのびやかに描くことが多い。構成要素は単純であるようでいて、白の形の上辺のわずかな切り込みなど、相当繊細なバランス感覚のもとで作品は成立している。

作者の福村は1936年生まれ。京都府は亀岡市にある「みずのき」という障害者支援施設で長く暮らしていた。この施設は1964年に日本画家の西垣籌一を指導者に迎えて絵画教室を開設し、何人もの「作家」を輩出したことで知られる。福村は、その創立時からのメンバーである。またみずのきでは、造形テストや色彩構成の課題を作り手に課していたこともある。その意味では、みずのきで生まれた作品を、独学であることや、独自の方法論を編み出していることを基本的な条件とするアール・ブリュットとは呼べないかもしれない。しかし、少なくとも福村の作品が、絵画の歴史のなかでも類例を見出しがたく、かつまた時流とは関係のない独特の構図の感覚をもっているのは事実である。

(保坂健二郎, 滋賀県立美術館)



タイトル：無題

作者：福村惣太夫 制作時期：1990年 素材：油彩、木炭、キャンバス  
サイズ：キャンバスFサイズ50号 (116.6×91.0 cm)